

地域農業の振興

市長が行く vol.2

令和3年(2021年)11月1日



高橋昌和 市長

JAはだの 宮永均 組合長

秦野市農業委員会 宮村俊男 会長

市長が、医療・産業・教育など多岐にわたるテーマに沿った現場を訪問し、対談方式で意見を聴き、市政への反映や本市の魅力向上を目指す企画です。

新型感染症の影響は、私たちの生活に変化をもたらしました。外食を控えて家で自炊する機会が増え、食への関心が高まり、安全・安心な食材、それを支える農業の大切さを再認識することとなりました。

そのような中、本市の農業振興について、JAはだの宮永均組合長と秦野市農業委員会の宮村俊男会長に、高橋市長が話を聴きました。

「コロナ禍の対応」

高橋 9月末に緊急事態宣言が解除され、少しずつ収束への動きを感じます。農業に対し、これまでどんな影響がありましたか。

宮永 ブライダルや葬儀といったセレモニーが縮小され、影響を受けたのは、秦野の特産である花き類やお茶でした。ブライダル向けのホワイトローズや会葬者向けのお茶が一例です。また、観光イチゴ園のほか、落花生やサツマイモの収穫体験ができる「はだの農業満喫CLUB」も人を集めることができなかつたので、大きな影響がありましたね。

高橋 多くの市民に利用されているファーマーズマーケット「じばさんず」はどうでしたか。

宮永 短縮営業となりましたが、幸い、利用者数への影響はあまりありませんでした。

宮村 農業委員会では、毎月、農地の許認可のための会議を開催しますが、感染対策を徹底することで一度も中止せずに実施することができました。

高橋 市も職員に呼び掛け、有志でバラやカーネーション、足柄茶の購入を支援させていただきました。また、地元応援クーポン券事業では、抽選で農作物

をプレゼントするなど、生産者の支援につながるような取り組みもさせていただきました。

自然災害への対応

高橋 最近では、昔に比べて、強い勢力の台風が接近・上陸することが多くなり、令和元年度は、特別大雨警報が初めて発令され、今年の7月にも豪雨がありました。災害による農業被害はどうか。

宮永 一昨年の台風第19号は市内の農地に甚大な被害をもたらしました。畦畔(けいはん)が崩れたり、茶畑が流されたりするなど大きな被害が発生しましたが、復興に向けて、費用負担を含めて迅速な行政支援を



講じていただき、大変助かりました。

高橋 災害はいつ来るかわかりませんが、常に備えることが肝心です。農地は農作物を作るだけでなく、雨水を浸透させ一時的に蓄え、土砂の流出を防止するなど多面的機能を持っています。ですから、適切に管理、利用していかなくてはなりません。

農地の維持・保全 「耕作放棄地対策」

高橋 市街化調整区域で目立つてきた耕作放棄地について、どのように考えていますか。

宮永 特定農地貸付法に基づき、はだの都市農業支援センターで支援しています。具体的には、耕作できない農地をJAが借り受け、市民農園として、ご利用いただいています。災害時において、農地は、防災機能を発揮しますので、農地を保全し、地域に貢献、協力していきたいと思っています。

高橋 農地の維持管理について、

担い手のお立場からいかがですか。

宮村 農業委員会も新規就農者の育成に力を入れています。まずは、農家の後継者を育てることが大切ですが、農作物の価格が低迷し、所得が上がらない。これが一番の大きな問題ですね。

高橋 耕作放棄地が、イノシシやシカの潜み場になり鳥獣被害を誘発していますが、どう考えていますか。

宮村 はだの都市農業支援センターを中心に取り組んでいます。が、他の自治体と比べても、その活動内容は充実し、効果が上がってきていると感じています。**高橋** 鳥獣対策では、県と連携し、ドローンを活用した調査を行っているようですが、こうした取り組みをどのように思いますか。

宮永 空からの被害の状況が明確になり、現状を共有することができるようになりました。行政、JA、農業者、また地域の生産組合などがそれぞれの役割の下に協力して取り組んでいき



たいと思います。

「生産緑地等」

高橋 市街化区域における生産緑地もありますね。

宮永 1992年に改正された生産緑地法により、最低30年農地・緑地として維持することで税制優遇を受けることができるようになります。30年の生産緑地の指定期間中に、万が一の場合は、指定を解除することもできます。また、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」により、規制されていた農地の貸し出しも可能になりました。

高橋 当初に指定を受けた農地は2022年に30年を迎えます。生

産緑地が指定解除された後、農地はどのようなのか、多くの人が懸念しています。

宮永 2017年の法改正により、30年の生産緑地の指定期間経過後、さらに、10年ごとの更新が可能となる特定生産緑地の指定を受けることができます。期間満了を迎える対象者が市内に約400人いましたので、制度を周知する

ため、市と連携し案内・説明に取り組んでいくところですが、現在、申請者のうち約9割が特定生産緑地の移行を選択しています。

今後、残りの方に対し、制度の内容をしっかりとお知らせし、引き続き、農地が保全されるよう取り組んでいきます。



高橋 本日訪れた「湧(わ)く湧(わ)く農園」は農業を営む園主の指導の下で、利用者が農作業を体験することができ、これも「農園利用方式」の生産緑地の有効活用につながる取り組みの一つですね。

宮永 秦野市は政令市に次いで生産緑地の指定率が高いです。「湧く湧く農園」も今年で4年目。土地所有者の和田礼子さんについて早く取り組んでいただき、約60人が利用しています。今後は、市内各駅周辺に1カ所ずつ設置することが目標です。

高橋 野菜を育てるのはもちろん、土を触り、人と交流することとは大切なことですから、ぜひ、多くの皆さんに農業を体験していただきたいですね。

担い手の確保

高橋 はだの都市農業支援センターの主な事業である「はだの市民農業塾」を展開し、担い手の確保に取り組んでいます。状況はいかがですか。

宮永 農業の担い手が、全国的に減少しています。秦野における2005年と2015年の農林業センサスでは、専業農家がおよそ80人増えています。兼業農家が減ってはいるものの、専業農家が増えているということは、非常に喜ばしいことです。

宮村 実際に塾生をお預かりしましたが、非常に熱心でした。こうした姿を見ると、心からうれしくなります。ぜひ、これからも継続していただきたいと思っています。

中学校給食の開始

高橋 中学校給食がいよいよ始まります。給食センターも10月に完成し、安全・安心で生徒が喜ぶ学校給食が目前となりました。市内の生産者の皆さんに、食材を提供していただく予定ですが、どのように受け止めていきますか。

宮永 地産地消率50%を目指した学校給食は、JAとしても願っていたことであり、生産者



も喜んでいきます。ぜひ、全面的に応援したいと思います。

宮村 農薬などの基準をクリアし、学校給食に使っていただけているというのは、生産者にとって大きな誇りであり、励みになっています。

宮永 学校給食を通じて、秦野の農業の理解、促進に必ずつながると思います。次代を担う子供たちに安全・安心な食材を供給することを念頭にしっかりと取り組んでいきます。

高橋 農業者も事業者も市民総ぐるみで、学校給食を充実させたいと考えています。ぜひお力添えをお願いします。

「これからの秦野の農業」

高橋 今年度3月末、新東名の秦野市内の区間が開通します。名称も「新秦野インターチェンジ」、「秦野丹沢サービステリア」や「秦野丹沢スマートインターチェンジ」と決まり、人の流れが大きく変わると予想されます。

このチャンスに対し、三者がしっかりと連携して取り組むことが何より大切と考えています。

宮永 秦野は、都市化地域の中の農業であり、観光農業に力を入れています。アクセスが良くなることで、はだの農業満喫C LUB、掘り取りなどの体験型農業を含め、新たに人を呼ぶことができると思っています。より一層事業内容を充実させながら、連携して取り組んでいきたいと思います。

宮村 秦野の農産物の販売を推進し、少しでも農家の所得の向上につながるれば、新たな活性化になると思います。

はだの都市農業支援センターへの期待

高橋 はだの都市農業支援センターは、市だけでは上手く機能しません。農地をしっかりと守る農業委員会とJAと連携して取り組むことに意味があると思っています。今後、どのようなことを期待しますか。

宮村 近隣市町村の中でもいち早くスタートした三者の連携した取り組みは、充実しているとの高い評価をいただいています。今後、市とJA、農業委員会が3本の矢となつてさらに頑張っていきたいと思えます。

宮永 当初の設立目的の一つに後継者をしっかりと育てる「人づくり」があります。そのほかに、農産物の生産・販路を拡大する「モノづくり」。そして、「地域づくり」。この三つにしっかりと取り組んでいくことです。JAにとっても、はだの都市農業支援センターはなくてはならない存在です。今後もずっと継続できるように支援をお願いします。

高橋 農業と福祉が連携し、障害者の居場所や働く場を作る農福連携を進めたいと思うのですが、どうでしょうか。

宮永 農家と福祉関係者が互いの環境や作業内容について理解し、それぞれの立場から検証しようと視察なども実施し、市と一緒に可能性を探っているところです。

実は、今泉と東田原の牧場では、30年前から養護学校から2人の卒業生を迎え、住み込みで雇用するという先進的な取り組みをしています。畜産以外の可能性も探りながら、農福連携を実現させたいですね。

宮村 さまざまな課題があるでしょうが、今後の農福連携に期待しています。

高橋 ご協力をお願いします。秦野の農

業の未来「多様な担い手がつなぎ、農の恵みがあふれる都市(まち)」の実現に向けて、JAと農業委員会、市が手を取り合って取り組んでいきたいと思えます。

